

この食べ物のふるさとはどこ？

時期 いつでも

時間 1時間

場所 教室

- 普段食べている食べ物の産地を調べる。
- 「食材の産地」と「地球環境」の関わりを考える。

ねらい

知る

- ・身近なスーパーマーケットなどで売っている食材が、いろいろな国や地域から運ばれてきていることを理解させる。
- ・環境への負荷が小さい食事の仕方を考えるきっかけとする。

活動展開例

第5学年 社会 「食料生産とわたしたちの暮らし」

準備物	・スーパーマーケットなどの食料品チラシ ・世界地図 ・ワークシート ・はさみ ・貼り返しできるテープ		
	時間	活動内容	留意点
展開	事前	○自宅からスーパーなどの食料品チラシを持ってくる（この後、5～6人のグループで作業をする）。	・なるべくカラー写真付きで分かりやすいものがよい。
	10分	○チラシの食材の写真を切り抜き、産地を見て世界地図にテープで貼り付ける。	・同じものは、どれか一つを貼る。
	15分	○貼りつけた地図を見て、感じたことを記入する。そして、グループごとに感じたことを話し合い、発表する。 【ワークシート】 ○ふるさと（産地）が遠い食べ物はどのように日本に運ばれてくるのかを問いかけ、産地が遠い程多くのエネルギーを消費していることを理解する。	・多様な感想を引き出す。 ・エネルギーを多く消費していることは、地球資源の枯渇や地球温暖化など関係していることを説明する。
	10分	○食料自給率クイズを行う。 （グループで話し合い回答） ・日本、栃木県の食料自給率など ・各料理の平均的食料自給率 ・近くで採れたものや国産品を食べることで食料自給率が上がることを理解する。	・毎日の食事は地球環境と関係していることを実感させる。 ・例：天ぷらうどん（20%） ハンバーガー（14%） 餃子（13%） たこやき（11%） 牛丼（51%） ※クッキング自給率（H22データ）
	10分	○食べ物の産地と環境の関わりを考える。	

高学年



活用ガイド

○活動の様子



○ワンポイントアドバイス

- ・マイレージの細かい計算をするよりも、その考え方を実感させることとする。
- ・何度も貼り直しができるテープを使うことで、地図は何回も使える。そのために地図はなるべく表面がなめらかなものを使うとよい。

○発展

- ・産地国の環境に与える影響も考えてみる。
- ・究極の「エコメニュー」を作ってみる。
環境の負荷を減らす食事には、「フードマイレージを減らす」だけでなく、「旬の野菜を使う」「食材を使いきる」「料理は食べきる」「フェアトレード商品を使う」「調理で使うエネルギーを少なくする」など、いろいろな方法があることを説明する。

○活動にあたって参考となるWebサイト

- ・フードマイレージ・キャンペーン きょう食べたものはどこからきたのかなー
<http://www.food-mileage.com/>
- ・「食料自給率の部屋」農林水産省 <http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/>
- ・「クッキング自給率」農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/zikyu03.html
- ・「FOOD ACTION NIPPON」農林水産省 <http://syokuryo.jp/>
- ・フード・マイレージ資料室 <http://members3.jcom.home.ne.jp/foodmileage/fmtop.index.html>

高学年



本プログラムの作成において参考としたWebサイト

- 「小学校向け環境教育プログラム」ー食べ物はどこからー NPO法人センスオブアース
http://npo-soe.jp/pb_pro03.html
- 「プログラムバンク」板橋区資源環境部環境課
<http://www.ita.ed.jp/ecopolis/programbank/>

この食べ物のふるさとはどこ？

月	日()	名前	
---	------	----	--

① チラシをはり付けた地図を見て分かったことを書きましょう。

② それらの食べ物はどのようにして運ばれてくるのでしょうか？

③ 自分の住んでいる近くで作られている食材を書いてみましょう。

④ 食べ物の産地と^{かんきょう}環境への^{えいきょう}影響について考えてみましょう。

高学年

